

別紙様式1

令和8年度学校経営計画

学校名 東広島市立志和小中学校
 学校長名 玉里 周二 印

I 学校の状況

学級数	小10学級・中4学級	児童・生徒数	273名	教職員数	28名
メールアドレス		shiwa-chu@city.higashihiroshima.hiroshima.jp (小中学校)			
ホームページアドレス		www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/shiwa_chu/ (小中学校)			

II 教育目標

「夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成」

III 経営理念 (ミッション・ビジョン)

【ミッション】「地域とともに未来を創る 一学校での学びを地域社会に結び付ける」
 【ビジョン】○課題に主体的に向き合い、解決に向けた行動をとることのできる人材の育成
 ○変化の大きい世界の中で状況を把握し、目標をもち、他者と協力して課題解決に取り組むことのできる人材の育成

IV 中期経営目標及び短期経営目標

項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目
確かな学力の育成	1	学びに向かう姿勢を整え、育てたい資質能力「推論する力」の育成を図り、小中一貫教育を深化する。 重点 ○「推論する力」の全教科展開 ○小中一貫教育の質的向上 ○eSTEAM教育の推進と地域貢献意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用の推進を図り、「推論する力」の育成を図る。 児童生徒が安心して学習できる教育環境を整え、接続期の充実と9年間を見通した学習指導を徹底する。 志和地域をフィールドとした探究的な学びを継続し、カリキュラ マネジメントの視点から単元開発をさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科において「類推・演繹・帰納」の推論ステップを活用した「推論する力」を育成する。 各教科の特性に応じて、効果的にICTを利活用する 児童の状況を多面的に把握し指導に生かすために、高学年を中心に、中学校から小学校への乗入授業を行う。 小中「互いの授業参観」を確実に実施できるよう時間割調整を工夫し、授業づくりへの理解を深める。 総合的な学習の時間を中心に、地域をフィールドとし、推論する力を発揮できるよう、カリキュラムを改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価等の分析 単元末テストの結果分析 研究授業の考察等
豊かな心・健やかな体の育成	2	自立・自律し、自他のことを大切にし、自己の健康と体力について理解して、高めていこうとする児童生徒を育成する。 重点 ○自己有用感を高める異年齢交流活動、部活動の地域展開 ○健康的な生活習慣、体力の向上 ○生城山ルーム(SSR)の充実、通級指導教室の効果的運用	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の良さを活かし児童会・生徒会活動や学校行事、部活動等を主体的に運営する体制を充実させ、自己有用感の向上を図る。 健康的な生活習慣について考え、健やかな体づくりに主体的に取り組む児童生徒を育成する。 「安全・安心な学校づくり」を推進し、児童生徒への支援体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の主体性と自発性を育てるために、児童会や生徒会活動をはじめとした活動を充実させる。 さらなる自己有用感の向上を図るために、児童生徒の「スモールステップでの目標設定」と「中間評価」を取り入れる。 児童生徒が自らの健やかな体作りに取り組めるようにするために、児童生徒がリズムチェック週間における自己の生活を振り返り、改善のための目標を立てる時間を設ける。 不登校の未然防止のため、学級における積極的生徒指導を行うとともに、児童生徒理解を深めるために、スクールカウンセラーや心のサポーター等と連携し、SSRを適切に運営する 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価等の分析 リズムチェック週間の振り返り 新体力テスト等の結果分析

信頼される学校	3	<p>コミュニティ・スクールを活性化し、地域とともにある学校として信頼される学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの体制を強化する。 ・学校HPや学校だよりなど、保護者・地域への効果的な情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・ルームを拠点とし、地域人材の可視化と連携強化と活動を実施する。 ・学校の取組や児童生徒の活動の様子を広く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校来校者アンケート ・学校評価の分析
働き方改革	4	<p>持続可能な教育環境の構築を目指し、業務改善を推進、超過勤務時間の月平均45時間以内を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、「働きやすさ」を感じ、「やりがい」をもって働ける環境を整える。 ・地域の協力ネットワークとの具体的な連携体制を構築し、持続可能な教育環境の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の心身の状況を積極的に把握する。 ・学校運営協議会と連携し、具体的な支援ニーズ（登下校指導、部活動、行事準備等）に対応した人材・資源とのマッチングを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入退校記録 ・学校衛生委員会による傾向分析 ・教職員質問紙

V 学校評価

(1) 学校評価システムの組織（構成者を含む）

[自己評価] 学校評価委員会（構成員：校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、保健主事）

- ・学校運営協議会において学校関係者評価を行う。

(2) 自己評価及び学校関係者評価の実施計画（公表方法を含む）

- ・教職員、保護者、生徒を対象としたアンケート調査を実施し、その結果・分析等を学校だより等で公表するとともに、学校運営協議会でその客観性を問う。